

# 札幌市スポーツ推進計画掲載事業の令和4年度（2022年度）実施状況

〔自己評価集計〕

自己評価基準		再掲除く				(参考:単純集計)
		2019	2020	2021	2022	2022
◎	当初の予定通り事業を実施できたもの	32	19	22	32	39
○	概ね予定通り事業を実施できたもの	42	40	40	39	41
▲	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は当該年度時点で事業化に至っていないもの	5	1	1	6	9
-	外的要因により未実施のもの又は規模を大幅に縮小したもの	6	25	22	8	10
◎及び○の割合		87.1%	69.4%	72.9%	83.5%	80.8%
◎及び○の割合(分母から「-」を除く)		93.7%	98.3%	98.4%	92.2%	89.9%

## 〈実施結果〉

○R4年度は新型コロナウイルスの影響による未実施又は規模縮小の事業が大幅に減少し、**8割以上の事業を概ね当初の見込み通り実施できた(◎又は○)**

## 目標 1 スポーツの力で「市民」がかがやく

### 方針 1 ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

施策 1 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します

#### (1) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
子どものスポーツ参加のきっかけづくり	ウィンタースポーツ塾(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	子どもたちを対象に自由に参加できる「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」の実施やウィンタースポーツを体験できる機会を提供 体験会実施種目:クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」は延べ732名が参加。 体験会は、夏期340名、冬期は1,000名が参加。	◎
	カーリング普及促進事業(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	カーリングに親しみきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供	子ども向け指導プログラム参加者数1,314名(193回実施)。 競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールは2,662名が参加(682回実施)。	
	さっぽろっ子ウィンタースポーツ料金助成(ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出	料金補助券を配付(スケート貸靴料金、スキーリフト料金) 使用者数延べ23,409名。	
	運動部活動アスリート派遣事業(アスリート活用事業)	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進	24運動部活動に派遣 派遣回数延べ290回	
	オリンピックズキャラバン事業(アスリート活用事業)	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	11イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ1,103名。	
部活動における外部人材の活用事業	各中学校における部活動の振興のため、部の運営を単独で行うことができる「部活動指導員」や、顧問教諭が不在でも単独で技術指導ができる「特別外部指導者」を派遣する	2022年度部活動数は1,195となり、ほぼ横ばい。部活動の振興のため、部活動指導員を65名に増員して派遣したほか、特別外部指導者を26名派遣した。		
地域スポーツ指導者の中学校への派遣	地域スポーツ指導者派遣事業(ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウィンタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	中学校体育授業の補助指導者として、19校に延べ517名派遣。	◎
スポーツ施設を戦略的に活用したスポーツを始めるきっかけづくりの検討	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技5種目及び夏季競技3種目において育成事業を実施。ナショナルチームに9名の育成選手が選出された。 また、体力測定会等を行い、優れた素質を有する子どもたちの中から、15名の子どもたちを発掘プロジェクト生として選考した。	◎
子どもの体力向上推進事業	子どもの体力・運動能力向上事業	子どもの体力、運動能力の向上を目指し、大学と連携してその方策を検討するとともに、運動機会の少ない子どもを対象にしたスポーツイベントを開催するなど、子どもの運動・スポーツ機会の一層の充実を図る	子どもの体力向上に係る調査研究は計画通り実施し、2022年度の施策へと生かした。また、運動機会の少ない子どもを対象としたスポーツイベントは、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催とした。	○
児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施	児童会館中・高校生夜間利用「ふりーたいむ」	児童会館において、開設時間を週2回午後9時までに延長することにより、中・高校生の放課後の居場所の確保を図る	〔実施館数〕106館 〔利用名数〕35,761名(コロナの規制緩和により、2021利用名数より増)	○

#### (2) ビジネスパersonや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツに対する意識の改善	大通駅～バスセンター前駅地下コンコース内へのサイン掲出	地下鉄利用者のサービス向上に加えて、市民のスポーツ意識の啓発を図るため、大通駅・バスセンター駅間の距離、歩行による消費カロリー、スポーツ標語を示したものに更新。	バスセンター前駅地下コンコース内にサイン(スポーツ啓発ポスター)を引き続き掲出した。	○

子育て世代のスポーツ参加に向けた取組	各区体育館におけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	利用者のニーズに合わせた、親子対象教室や託児付き教室を自主事業として実施	体育館グループでは厚別区体育館他2施設にて親子参加型の運動教室を実施。温水プールグループは平岸プールにて親子参加型水泳教室を実施。	○
ウォーキング推進キャンペーンの実施	「ウォークさっ歩ろ」の啓発	ウォーキングを通じて、市民の皆さんがいつまでも元気であり続けること、そして札幌が「歩きやすい街」、「歩いて楽しい街」、「歩きたくなる街」として、国内外に広く知られるようになることを目指す	各区で作成しているウォーキングマップを引き続き配架した。	◎
	各区におけるウォーキング推進事業(白石区)(白石健康づくり推進事業)	健康を意識し、運動や食生活改善に向けて自発的に行動する区民を増やすため、ウォーキングマップの作成や各種スポーツ大会への支援により、気軽にウォーキングやスポーツに親しめる環境を整える	参加名数:441名 コロナ禍のため、集合形式のウォーキング会については実施せず、個名で取り組めるウォーキングラリーを実施した。スポーツ大会は、スポレク大会と野球大会以外は中止した。なお、マラソン大会は代替事業として、個名でランニングを行うスタンプラリー形式の事業を実施した。	
	各区におけるウォーキング推進事業(厚別区)(食とルディックウォーキングを合わせた健康寿命延伸事業)	健康寿命延伸のため、健康に直結する食育と手軽に取り組めるルディックウォーキングを合わせて実施し、全体として健康を目指す意識と実践の必要性を区民に広める	・ルディックウォーキング講座(年3回) →7月、9月、10月に3回実施。計42名が参加した。 ・ルディックウォーキングマップの作成、配布(配布数累計:3500冊) ・ルディックウォーキングホール貸出 →11回、39本の貸出を実施。	
	各区におけるウォーキング推進事業(南区)(冬も楽しむウォーキング推進事業)	冬もウォーキングを楽しむ人を増やすため、冬季のウォーキングイベントを開催し、雪道の安全なウォーキング方法の周知するとともに、ウォーキングポールの賞与など、ウォーキングを実践している団体へ冬季の参加拡大に向けた支援を実施	・冬期ウォーキングイベントについては、感染症対策を施しながら従前よりやや規模を縮小して開催した。 ・ウォーキング愛好団体の定例会や地域で活動するグループのウォーキング活動に対し、ウォーキング活動カレンダーや啓発品を配布するなどの支援を行った。 ・これらの冬期ウォーキング活動への参加者は、延べ1,671名、累計では5,880名となった。	
	各区におけるウォーキング推進事業(西区)(だれでもいつでも・なんどでもルディックウォーキング事業)	幅広い世代の区民が多様なライフスタイルに合わせ、年間を通してルディックウォーキングを活用した健康づくりに取り組むことができるよう拠点づくり、講習、イベント等を実施	・西野まちづくりセンターを拠点として追加した。 ・保健センターとまちづくりセンターの貸出期間を1日から1週間へ延長した。 ・初心者講習を保健センターと農試公園委託を合わせて10回開催した。639名がルディックウォーキングを実践した。	
各区におけるウォーキング推進事業(手稲区)(住んでてますます「ていねっていいね」健康長寿事業)	北海道科学大学とウォーキング特集サイトを構築し、その活用術を発信するとともに、地域等と連携して健康度がアップする取組を展開	・2023.3.15サイト公開及び公開セミナーの実施。		
スポーツ活動を促進するインセンティブの検討	働く世代への健康増進アプローチ研究事業	健康課題の多い働く世代を対象に、健康行動につながる支援を行い、その結果検証からアプローチ方法を分析し効果的な施策を検討。	R3年4月から本格運用し、中小企業の本事業参加者へ健康増進プログラムの施行や検証、分析を実施。	○

## (3) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣	ねんりんピックへの選手派遣	高齢者を中心とするスポーツ・文化・健康・福祉などの総合的なイベントである「ねんりんピック」に、選手を派遣	16種目83名の選手を派遣した。	◎
老人福祉センターにおける健康増進の場の提供	老人福祉センター運営	地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供	健康増進に関する教養講座を10館で計71講座実施した。	◎
老人クラブへの活動支援	老人クラブ活動費補助事業	健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う老人クラブ連合会の活動を支援	363のクラブ(計18,201名の会員)や老名クラブ連合会に補助金交付を行った。	○

## 施策2 スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

## (1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館	中央体育館改築事業	中央体育館を建て替え、今後の市民のスポーツ活動を支える中核施設としての機能を確保します。	2019年度供用開始(事業終了)	◎

スポーツ施設の計画的な保全、改修	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	【保全】 ・手稲区体育館体育室床保全 ・大倉山ジャンプ競技場エスカレーター保全 ・円山球場スコアボード改修 ・西区体育館・温水プール改修 【備品】 ・豊平区体育館トレーニング機器更新 ・白石区体育館得点盤更新 ・円山球場スピードガン購入等を実施。	◎
	札幌ドーム保全事業	計画的に保全改修工事を行い、大規模イベントなどを継続的に開催できる環境を保ちます。	一般照明設備改修工事、自動火災報知設備改修工事、消防設備改修工事、弱電設備保全業務 等を実施。	
	藤野野外スポーツ交流施設リニューアル事業	藤野野外スポーツ交流施設(フズ)の老朽化が進んでいるリフトを更新	2018年度に第1口マンスリフトの更新が完了。2022年度11月に第1ペアリフトの更新工事が完了し、12月より供用を開始した。	
	硬式野球場整備事業	硬式野球場の不足に対応するため、既存の軟式野球場を硬式野球場に改修	2022年度に建設を開始した。	
	市民運動広場整備事業	北区新琴似の市有地について、地盤や地下水への影響を見極めながら、市民運動広場としての活用を図る。	事業の方向性について、2020年度に実施した汚染対策の基本設計、調査・解析結果を踏まえ、2021年度に広場整備を推進することとなり、2022年度に実施設計を実施した。	
安全・安心な公園再整備事業	誰もが地域の公園を安心して安全に利用できるよう、老朽化した遊具や管理事務所等の改修を行うほか、出入口や園路の段差解消、バリアフリー対応トイレの設置など、施設のバリアフリー化を実施します。	【バリアフリー化、老朽化施設更新を実施した公園数】 38公園(累計193公園) ※屯田西公園における運動施設の改修 屯田西公園(陸上競技場、サッカー場の施工完了)		
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討	スポーツ施設配置・活用計画策定事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応するため、オリパラ等の競技大会への対応や更新費用の平準化等を考慮した計画を策定	「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」を策定した。	○
	スポーツ施設再整備事業	更新時期を迎えたスポーツ施設の再配置・再整備等の具体的な検討	・基本計画策定に向けて作業を進めていたが、追加検討が必要になったため、当該年度中の策定には至らなかった。 ・温水プールの民間活活活用に向けた調査結果をもとに本市所管のプールや民間プールを含めた効率的・効果的な施設のあり方について検討を行った。	
<b>(2) スポーツを実施する機会の提供・情報発信</b>				
具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
学校開放の実施	学校施設開放事業(学校施設等開放事業)	小中学校の体育施設を市民へ開放し、身近なスポーツ活動の場を提供(体育館、グラウンド、格技室)	小中学校の体育施設を市民へ開放し、市民のスポーツ活動の場の提供を継続。 利用率: 85.9%	○
スポーツ施設供用時間の延長の検討	どうぎんカーリングスタジアムの供用時間の延長(体育施設運営管理事業)	競技力の向上と裾野拡大を図るため、ネーミングライツを財源として、開館時間を延長(月～木: 1時間、金・土: 2時間)	2021年4月1日～2022年3月31日(年末年始、日曜日、整備日、氷張替休館、コロナウイルス休館除く)実施。	○
新たなパークゴルフ場の整備	公園造成事業	みどりの基本計画に基づき、みどりのネットワークの骨格や街中のみどりの創出となる公園・緑地の整備を行います。	厚別山本公園パークゴルフ場 2019年度供用開始(事業終了)	◎
ワールドカップ開催を契機としたラグビー競技の普及	ラグビー普及振興事業	小学生を対象としたタグラグビーの普及を行うとともに、トップレベルの試合を観戦する機会を提供	2022年度、札幌市内小中学校のタグラグビー実施率95.5%	◎
スポーツ関連情報の効果的な提供	スポーツ関連情報の効果的な提供	公式ホームページ、広報誌のほか、イベント出展などを通じて随時情報提供	各事業においてそれぞれ実施	○
さっぽろ市民カレッジの実施	さっぽろ市民カレッジ運営	札幌市生涯学習センターを拠点として「さっぽろ市民カレッジ」を開設し、ダンスやフィットネスなど、若若男女が気軽にスポーツを体験できる講座を提供する	スポーツ・健康コースを中心にヨガや体感トレーニング等の講座を複数実施し、スポーツ体験の機会を提供した。	◎
<b>(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究</b>				
具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究	ウィンタースポーツ・オフシーズン練習施設整備費補助金	市民が一年を通じてウィンタースポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	補助件数1件(累計4件)	○

## 施策3 ウィンタースポーツを振興します

## (1) ウィンタースポーツの裾野拡大に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツ塾の開催【再掲】	ウィンタースポーツ塾【再掲】 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	子どもたちを対象に自由に参加できる「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」の実施やウィンタースポーツを体験できる機会を提供 体験会実施種目: クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」は延べ732名が参加。体験会は、夏期340名、冬期は1,000名の参加があった。	◎
ウィンタースポーツ少年団の活性化	ウィンタースポーツ競技団体とのマッチング (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	ウィンタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験練習会の開催や広報を支援	リュージュ体験会を実施し60名が参加した。また、市役所ホームページに少年団情報を掲載し、ジャンプ少年団の体験会広報チラシを配布した。	○
カーリング競技の普及	カーリング普及促進事業【再掲】 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	カーリングに親しみきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供	子ども向け指導プログラム参加者数1,314名(193回実施)。競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールは2,662名が参加(682回実施)。	◎
ウィンタースポーツインストラクターの派遣	さっぽろっ子ウィンタースポーツパワーアップ事業 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウィンタースポーツに親しむ習慣を育む	スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣66校延べ710名 歩くスキー 派遣15校延べ1,163名	◎

## (2) ウィンタースポーツの経済的負担の軽減

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツ実施時の利用料金等の助成	さっぽろっ子ウィンタースポーツ料金助成【再掲】 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出	料金補助券を配付(スケート貸靴料金、スキーリフト料金) 使用者数延べ23,409名。	◎
児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供	さっぽろっ子スキーリサイクル	スキー学習に向けた保護者の負担軽減を目的として、市民からリサイクル可能なスキー用具を回収し有効活用	市民からリサイクル可能なスキー用具を回収して、787セットの用具を必要とする家庭に配付した。	◎
さっぽろアスリートサポート事業	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援名数 計297名(うち、国際大会への支援14名)	—

## (3) ウィンタースポーツ競技大会の情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツシーズンにおける大会情報の発信	ウィンタースポーツ観戦文化醸成 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツ大会の主催者と連携して、観戦環境の充実を図る。また、コンサドーレとの「ウィンタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	【観客数】 W杯男子: 1試合平均2,266名(3日間合計6,800名) W杯女子: 1試合平均2,350名(2日間合計4,700名) サマージャンプ大会: 1試合平均1,250名(2日間合計2,500名)	○
ウィンタースポーツ競技大会の開催支援	ウィンタースポーツ観戦文化醸成【再掲】 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツ大会の主催者と連携して、観戦環境の充実を図る。また、コンサドーレとの「ウィンタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	【観客数】 W杯男子: 1試合平均2,266名(3日間合計6,800名) W杯女子: 1試合平均2,350名(2日間合計4,700名) サマージャンプ大会: 1試合平均1,250名(2日間合計2,500名)	○

## 方針2 スポーツを通じた健康増進

## 施策4 スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

## (1) 市民の自主的な健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
地域における健康づくり活動の支援	健康づくりサポーター派遣事業	これから健康づくりを始める、又は活動をさらに活性化したいと考えている自主活動グループや町内会などの団体に対して、健康づくりサポーターを派遣	趣味サークルや町内会等の自主活動グループに対し、健康づくりサポーターを派遣し、健康さっぼろ21の課題等の啓発を実施。	◎
	清田区健康アップ推進事業	運動習慣のある区民を増やすとともに、加えて、バランスの良い食習慣の普及も進め、運動と栄養の両面から健康づくりに取組む区民を増やし、健康寿命の延伸につなげることを目的とする。	・きよつち健康ポイント事業を実施(参加者数321名) ・区役所健康増進フロアで土曜日に運動教室(全82回)、日曜日にヨガ教室(全22回)を実施。	
ビジネスパーソン・女性の健康づくりの推進	働く世代への健康増進アプローチ研究事業【再掲】	健康課題の多い働く世代を対象に、健康行動につながる支援を行い、その結果検証からアプローチ方法を分析し効果的な施策を検討。	R3年4月から本格運用し、中小企業の本事業参加者へ健康増進プログラムの施行や検証、分析を実施。	○
	働く世代・女性を対象とした企業等との連携協働事業	働く世代や女性の健康づくりの取組強化、推進に向けて、市民・企業・関係機関等との協働による啓発等の取組や環境整備を実施。	企業等の持つ手法やネットワークを通じて、幅広い世代への健康に関する普及啓発を実施	
公園などの散歩できる場の提供	公園造成事業【再掲】	みどりの基本計画に基づき、みどりのネットワークの骨格や街中のみどりの創出となる公園・緑地の整備を行います。	[新規造成及び拡張整備を行った都市公園の面積]14.2ha(累計23.6ha)	◎
	安全・安心な公園再整備事業【再掲】	誰もが地域の公園を安心して安全に利用できるよう、老朽化した遊具や管理事務所等の改修を行うほか、出入口や園路の段差解消、バリアフリー対応トイレの設置など、施設のバリアフリー化を実施します。	[バリアフリー化、老朽化施設更新を実施した公園数]38公園(累計193公園) ※屯田西公園における運動施設の改修陸上競技場、サッカー場の施工完了	
	地域に応じた身近な公園整備事業	良好な都市環境や子どもの遊び場を維持・創造するため、人口の増加により身近な公園が一層不足すると予想される既成市街地への新規公園整備や狭小公園の拡張を進める。	[都心及びその周辺で整備に着手した公園数]0か所	
	地域と創る公園機能再編・再整備事業	老朽化した身近な公園を対象に、ワークショップ等で地元住民と話し合いを行い、意見を反映するなど、地域のニーズに応じた再整備を行い、また、機能特化で施設総量の抑制を取り入れた整備を行います。	[核となる公園の全面再整備実施公園数]24公園(累計329公園)	

## (2) 健康づくりセンターの活用

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
健康度測定の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業(健康度測定)	健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づく個別の運動プログラムなどを作成。	健康度測定の実施:利用者1,057名	○
有資格者による運動指導の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業(運動指導)	市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行う。	個別運動指導の実施:延552名 運動指導員派遣:延372名	○

## 施策5 冬季における運動習慣を推進します

## (1) 気軽に行うことのできるウインタースポーツの普及

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
歩くスキーの普及振興	歩くスキー普及振興事業	市民が手軽にウインタースポーツを楽しめる環境づくりのため、中島公園及び白旗山競技場に歩くスキーコースを設置し無料で開放する	中島公園利用者数5346名 白旗山競技場は無名開放のため、利用者数のカウントをしていない。	◎
大通公園ウインタースポーツフェスティバルの開催支援	さっぼろスノースポーツフェスタの開催支援	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりを行う(大通公園にて歩くスキー、スノーボード、スノーシュー、クロカンの体験会を開催)	※2019年度から大通公園ウインタースポーツフェスティバルに代わり、さっぼろスノースポーツフェスタを開催。 2022年度は真駒内屋外競技場にて、クロスカントリーのジュニア大会のほか、スキー、スノーボード、スノーシュー、シットスキー体験会などを実施した。	○
カーリング競技の体験機会の提供	どうぎんカーリングスタジアムにおけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	気軽にカーリングを体験できる機会として、体験教室や団体向けレクリエーションを開催	観光客向け、市内団体(町内会や学校等)向けに体験会を開催し、262団体を受け入れ、約2,400名の参加があった。	○

## (2) 冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供	スノーホッケー会場整備  冬も楽しむウォーキング推進事業(南区)【再掲】	雪上で気軽に楽しめるウインタースポーツとして札幌市が考案したスノーホッケーについて、会場を整備のうえ市長杯争奪スノーホッケー大会を開催  冬もウォーキングを楽しむ人を増やすため、冬季のウォーキングイベントを開催し、雪道の安全なウォーキング方法の周知するとともに、ウォーキングボールの貸与など、ウォーキングを実践している団体へ冬季の参加拡大に向けた支援を実施	2023年2月19日(日)に開催し、193名の選手が参加した。  ・冬期ウォーキングイベントについては、感染症対策を施しながら従前よりやや規模を縮小して開催した。 ・ウォーキング愛好団体の定例会や地域で活動するグループのウォーキング活動に対し、ウォーキング活動カレンダーや啓発品を配布するなどの支援を行った。 ・これらの冬期ウォーキング活動への参加者は、延べ1,671名、累計では5,880名となった。	◎
冬季における公園(スキー山)の活用促進	冬季における公園利用の推進	快適な冬の暮らしを実現するために、スキーや雪遊びなど冬季の公園活用を推進	歩くスキーコースの設置及び道具の貸し出し(川下公園、農試公園、前田森林公園等)や、スキー山で使用するソリの貸し出し(モエレ沼公園、農試公園等)、チューブソリの貸し出し(円山公園)等を実施	○
雪かき汗かきチャレンジ	雪かきチョボラ、雪遊びチャレンジ	自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しませるとともに、冬季における運動習慣の定着を図る	14,804名の児童生徒が雪に親しみながら体を動かす習慣を身に付けるとともに、公共のために役立つ活動を主体的に行った。	◎

## 方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

## 施策6 地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます

## (1) 地域におけるスポーツ活動の支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
地域スポーツクラブの活動支援	体育振興会への活動支援	体育振興会のニーズに応じて、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の紹介などの協力を行う	講師の派遣依頼なし	▲
地域スポーツ指導者の中学校への派遣【再掲】	地域スポーツ指導者派遣事業【再掲】(ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	中学校体育授業の補助指導者として、19校に延べ517名派遣。	◎
地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援	スポーツ振興事業 例:清田区における地域スポーツ活動支援  地域開放スポーツ施設	各競技団体と共催(一部後援)でスポーツ大会を開催する。また清田区スポーツネットの活動を支援し、区内スポーツ関係情報の発信、スポーツを楽しむ機会の提供、スポーツ関係者の資質向上を図る。  土地、建物の所有者が、その土地、建物をスポーツ施設として整備し地域に開放することで、地域のスポーツ活動の機会の充実を図る	・区内の7競技団体と共催(一部後援)で各種大会を実施。 ・令和4年度に設立した札幌国際大学の「SIUスポーツクラブ」と共催により「シニアスポーツ教室」や「キッズスポーツ教室」など、幅広い年代を対象としたスポーツ教室を複数回開催。 ・清田区スポーツネットと共催で「スポーツ講演会」「Fun×Fan Sports in きよた」を開催することで、スポーツ関係者との連携を強化し、子どもたちを中心とした清田区民にスポーツを楽しむ機会、好きになるきっかけを提供した。  テニスコート(1か所)を地域の方に開放し、親睦、健康づくりのために活用。	○

## (2) 区の特徴やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
区の特徴をいかしたスポーツ振興事業の実施	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業	市民が主役のまちづくりを進めるため、身近な地域のまちづくり活動の支援を行う。(まちづくりに資する地域のスポーツ振興活動の支援を含む。)	各区における地域の主体的なまちづくり活動に対して、各区への予算措置による支援を実施した。 〔2022年度実績〕 住民主体の事業数の割合：74.5%	○
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(中央区)	●スポーツ大会後援 ●2022アタック・ザ・531M(藻岩山ファミリー登山) ●第20回中央区インドア雪合戦大会 ●Cスポーツパーティー2022 ・小学校低学年を対象に様々なスポーツを体験する機会や場所を提供 ●ウインタースポーツフェスタin大倉山 ・冬期間の外遊びの場を提供	●スポーツ大会後援 ・少年野球大会 ・中央区長杯バークゴルフ大会(第22回) ●2021アタック・ザ・531M 参加者数:52名 ●第20回中央区インドア雪合戦大会 参加者数:150名 ●Cスポーツパーティー2022 参加者数:187名 ●ウインタースポーツフェスタin大倉山 参加者数:414名	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(北区)	市民が主役のまちづくりを進めるため、身近な地域のまちづくり活動の支援を行う。	・区内の小学3～6年生を対象として、「北区少年少女スポーツ大会」を実施し、46名の選手が参加した。 ・「やってみよう!遊ぼう!北区雪合戦」を実施し、北区在住者53名(うち子どもは44名)参加した。	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(東区)	ひがしく健康・スポーツまつり 各団体が様々な立場や視点から「健康・スポーツ」について考え、区民・企業・行政が一丸となって取り組むイベントを開催する。	新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小し、開催時間も短縮して開催した。 参加人数:約500人	
	ノルディーア北海道との連携事業(東区)	東区を拠点に活動している女子サッカーチーム「ノルディーア北海道」とのまちづくりパートナー協定に基づき、女子サッカー(女性スポーツ)の普及振興、アスリートへの応援機運の醸成、区民の健康意識の向上等を図る。	連携事業数:1事業 ひがしく健康・スポーツまつりへの出展協力	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(白石)	ニュースポーツふれあい事業 ・ニュースポーツ貸出事業 ・なわとび大会 年齢、性別、障害の有無といった様々なハードルを越えて、誰もが気軽にゲーム感覚で楽しむことができるニュースポーツを通じて、普段スポーツを行っていない高齢者や子どもたちが、気軽に体を動かすことにより、区民の健康づくりや交流促進を図る。	○ニュースポーツ貸出件数91件、利用者数8,600人 ※新型コロナウイルス感染症の影響で貸出件数、利用者数が減少。  ○なわとび大会 69人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催方式変更のほか、参加者や種目を限定したため、人数が減少した。	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(厚別区)	「厚別区スポーツチャレンジ」 誰もが気軽にスポーツを楽しみ、体験できる場を提供し、区民の健康増進やスポーツを通じた地域交流を図るとともに、スポーツに取り組むきっかけづくりにも寄与することを目的に実施。	申込者数:135名 参加者数:116名	
	とよひらスポーツ応援プロジェクト事業(豊平区)	札幌ドームを始め多数の国際規模のスポーツ施設に恵まれた「スポーツのまち・豊平区」として、区民がスポーツに親しむための多彩な機会を提供	・スポーツバイキング2022 ・とよひらkidsスポーツ体験会(フィギュアスケート) ・各種スポーツ大会の支援 ・豊平区スポーツ推進委員会との共催事業(少年野球、壮年野球、カーリング) ・タグラグビー研修会(タグラグビー体験会の代替事業として実施)	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業におけるプロスポーツ応援デー連携事業	●とよひらジュニアフットサル体験会 「エスポラーダ北海道」と連携し、区民のスポーツ振興と地元チームへの興味喚起を目的として、小学1～3年生を対象にフットサルを楽しみながら体験できる教室を開催した。	参加者:17名	
	スポーツフェスタin白旗山(清田区)	スポーツの日に白旗山競技場において、広く区民に対してスポーツ等に親しむ行事を行う団体の活動に対して、助成金を交付する。	新型コロナの影響により中止。	
未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(西区)	・体力測定会(西区体育館にて、13項目を無料で測定、総合判定を実施) ・西区民みんなで楽しむマラソン大会(西区スポーツ推進委員会との共催で、農試公園において毎年10月の「スポーツの日」に開催) ・西区民雪合戦大会(小学生(低学年・高学年)の部と一般の部に分け、西区スポーツ推進委員会との共催及び公園緑化協会の協力により農試公園で開催)	西区体育館の改装、雨天、新型コロナの影響により中止。		
手稲ふるさと創生事業	手稲山の自然に触れて親しんでもらえるよう手稲山ウォーキングや親子スキー教室などのイベントを開催し魅力再発見につなげる	手稲山ウォーキング:74名 親子スキー教室:120名 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小開催。		

## 施策7 スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します

### (1) スポーツボランティアの育成と推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツボランティアの活動及び研修機会の提供	スポーツボランティアの運営・管理 (地域スポーツコミッション事業)	スポーツボランティア(スマイル・サポーターズ)の管理運営及び道内連携の推進	・ウィズコロナにおける大会等の開催により例年並みの派遣数を確保することができたほか、小学校スキー学習支援事業や研修会の実施によりボランティアの活躍機会やスキルアップの機会を創出し、ボランティア文化の醸成に寄与した	○

### (2) スポーツ推進委員の活動促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツ推進委員の活動促進	スポーツ推進委員の活動促進	札幌市及び各区スポーツ事業への参画・協力をはじめ、各地域、町内会等の住民組織及び地域スポーツ団体と連携し、市民の健康・体づくりに向けた事業の企画・運営・指導等を実施	12イベント開催	◎

### (3) クリーンでフェアなスポーツの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
クリーンでフェアなスポーツの推進	競技団体等の連携によるスポーツ・インテグリティの啓発	スポーツ関係者によるコンプライアンス違反、体罰、暴力等の根絶を目指し情報提供等を行う	札幌市スポーツ協会による、暴力等のハラスメントをテーマとした加盟競技団体向けの講習会・研修会を実施。	◎

## 施策8 トップスポーツやアスリートと連携を図ります

### (1) アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
アスリートの活用	運動部活動アスリート派遣事業【再掲】 (アスリート活用事業)	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進。	24運動部活動に派遣 派遣回数延べ290回	◎
	オリンピックスキャラン事業【再掲】 (アスリート活用事業)	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	11イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ1,103名。	
ウィンタースポーツインストラクターの派遣【再掲】	さっぽろっ子ウィンタースポーツパワーアップ事業【再掲】 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウィンタースポーツに親しむ習慣を育む	スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣66校延べ710人 歩くスキー 派遣15校延べ1,163人	◎
大学のスポーツ資源をいかした連携	大学との連携によるスポーツ振興	大学施設を活用した事業、大学部活動との連携によるスポーツイベントの実施など	関係者と連携に向けた協議・検討を開始。新型コロナウイルスの影響で、具体的な活動は2023年度以降。	—

### (2) アスリートの育成支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成【再掲】 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技5種目及び夏季競技3種目において育成事業を実施。ナショナルチームに9人の育成選手が選出された。 また、体力測定会等を行い、優れた素質を有する子どもたちの中から、15人の子どもたちを発掘プロジェクト生として選考した。	◎
さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援人数 計297人(うち、国際大会への支援14人)	—
スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討	スポーツ支援企業マッチング事業	事業化に向けた検討中	・2022年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	▲

### (3) プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
プロスポーツSAPPOROによる取組	プロスポネットSAPPORO連携事業	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ)と連携して観戦文化の醸成を図る	年間実施数 10事業(区民応援デー、キッズデー、他部局連携(教育、消防)、共通カレンダー作成、合同動画制作、シティドレッシング、豊平公園駅パネル掲示、雪かき汗かきチャレンジ、FISジャンプワールドカップコラボ、コンサドーレ開幕戦盛り上げ)	○
	デンソー、サフィール北海道とのハレ・ホール普及振興事業	デンソーエアーベース(VI女子)及びサフィール北海道(V2男子)を保有するミリススポーツとのホームタウンパートナー協定に基づき、ハレ・ホールの普及振興、応援機運の醸成を図る	2事業(シティPRとしてアリーナにスマイルロゴの掲出)	
北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放	ファイターズ屋内練習場市民開放事業(学校施設等開放事業)	ファイターズ屋内練習場を小中学生が使用する際の経費を補助	小、中学生の利用回数122回に対して補助を行った。	◎
北海道コンサドーレ札幌との連携によるウィンタースポーツの普及振興	北海道コンサドーレ札幌との連携によるウィンタースポーツ普及振興	コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかし、ウィンタースポーツの普及振興やアスリートの育成を目指す	カーリングトークショー及びジャンプW杯札幌大会協力(対談者・マスコットキャラクター派遣)	◎

## 目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

## 方針4 スポーツを通じた共生社会の実現

## 施策9 障がい者スポーツを振興します

## (1) 障がい者スポーツの普及・振興の促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
区体育館における障がいのある方の利用促進	障がい者スポーツ体験会の実施 (障がい者スポーツ普及促進事業)	様々な競技の体験会を実施し、障がい者スポーツの裾野拡大や市民理解の促進を図る。	大型商業施設にて体験会等のイベントを実施したほか、障がい者スポーツを支える人材を育成するため、ボランティア養成講習会を行ったが、コロナウイルス感染症の影響により参加人数は1,785人となった。	▲
障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催	障がい者スキー普及促進事業 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がいのある方のウィンタースポーツの裾野拡大を目的として、バイスキー・シットスキーの指導者養成講習会及び体験会を開催	2018年度よりシットスキー及びバイスキーについて指導者養成講習会を実施している。2022年度は、シットスキーの指導者養成講習会15名受講、バイスキーの指導者養成講習会は19名受講。	○
障がい者スポーツ普及促進協議会の設置	障がい者スポーツ普及促進協議会の設置 (障がい者スポーツ普及促進事業)	学識経験者をはじめ、障がい者団体や競技団体、スポーツ施設運営者など多様な関係者からなる協議会を設置し障がい者スポーツの普及促進を図る	2018年度より、障がい者スポーツの普及促進と関係者の連携強化を目的にスポーツ団体や民間企業出身の委員等から成る「札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会」を設置しており、2022年度は2回の会議を開催した。	○

## (2) 障がい者スポーツの拠点づくり

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツクラブの拠点づくり	障がい者スポーツ専用の学校開放 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、みなみの杜高等支援学校の体育館で障がい者スポーツ専用の学校開放を実施	稼働率: 66.5% (新型コロナの影響で開放出来なかった期間あり)	○
	パラスポーツクラブ SAPPOROの運営 (障がい者スポーツ普及促進事業)	スポーツを継続して楽しめる拠として「障がい者スポーツクラブ」を開設し、肢体不自由のある子どもが初心者であっても気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを整備	2021年度をもって事業終了。	

## (3) 障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援	全国障害者スポーツ大会札幌市選手団派遣 (障がい者スポーツ普及促進事業)	全国障害者スポーツ大会に札幌市選手団を派遣	72名の派遣を行った。	○
	札幌市障がい者スポーツ推進事業補助金 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がい者スポーツ大会開催事業や選手団派遣に係る交通費等への助成	2022年度は4年ぶりの全国大会開催となり、それに伴う北海道・東北ブロック予選会に係る選手団派遣に必要な助成(141万円)を行った。 また、はまなす車いすマラソン大会についても3年ぶりの開催となり、開催準備に係る助成(450万円)を行った。	
	障がい者スポーツ大会開催事業	市内の障がい者(身体・知的・精神)を対象としたスポーツ大会(通称すずらんピック)を開催	すずらんピックを開催した。(参加者数: 754名(役員含))	

## (4) スポーツ施設のアクセシビリティ向上

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツ施設の計画的な保全、改修【再掲】	スポーツ施設リフレッシュ事業【再掲】	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	【保全】 ・手稲区体育館体育室床保全 ・大倉山ジャンプ競技場エスカレーター保全 ・円山球場スコアボード改修 ・西区体育館・温水プール改修 【備品】 ・豊平区体育館トレーニング機器更新 ・白石区体育館得点盤更新 ・円山球場スピードガン購入等を実施。	◎
障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営	障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「障がいのある方への配慮のガイドライン」を策定し誰もが利用しやすい施設運営を行う	障がいのある方への配慮のガイドライン(H28.10策定、H30.5改定)に基づき、誰もが利用しやすい運営を実施。	○

スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討	スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会において「バリアフリーマップ」の導入を検討	HPのフロアマップにおいて、多目的トイレなどの表示を行っているが、より誰もが見やすいバリアフリーマップの作成へ向けて、他企業や団体などの情報収集を行い、札幌市のスポーツ施設におけるマップのあるべき姿の検討を進めている。	○
スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上	スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「ウェブアクセシビリティ方針」を策定し誰もが利用しやすいホームページ運営を行う	ウェブアクセシビリティ方針が策定され、HP上に公開されている。HPのJIS X 8341-3:2016に基づいた試験が行われており、適合レベルAAに準拠している。	◎

### 施策10 スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

#### (1) 姉妹都市との国際スポーツ交流の実施

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業	国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業 (スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、各姉妹都市の中学生選手団と札幌の中学生選手団がスポーツを介して交流を行う	新型コロナの影響により派遣見送り	—
札幌マラソン大会姉妹都市交流事業	札幌マラソン大会姉妹都市交流事業 (スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、5年毎の姉妹都市提携記念年に該当する相手都市から選手団を札幌マラソン大会に招待	新型コロナの影響により受入見送り	—

#### (2) スポーツを通じた国際交流の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
国際交流館におけるスポーツや健康づくりをきっかけとした異文化理解の促進	札幌国際交流館国際交流事業	札幌国際交流館において、市民と外国籍市民等とがスポーツを通じて相互理解及び親善を深められる事業を実施	改修工事により長期間、国際交流館を使用している国際交流事業は実施することはできなかったが、併設するJICAと共催での「世界ふれあいミニひろば」や、姉妹都市パネル展を実施。	—
国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援	さっぽろアスリートサポート事業 (スポーツ振興基金助成金(国際交流の部))	次世代のトップアスリート育成のため、各種大会参加経費等へ補助	大会出場支援人数 計297人(うち、国際大会への支援14人)	—
ラグビーワールドカップ2019TMの開催を契機とした国際交流	ラグビーワールドカップ2019開催事業	外国人おもてなし事業、ファンゾーン運営など	2019年度開催(事業終了)	◎
札幌国際スキーマラソン大会の開催を通じた国際交流	札幌国際スキーマラソン大会選手交歓会における選手間の国際交流	札幌国際スキーマラソン大会の前日に開催する選手交歓会において、国内・海外選手の交流を図り、それぞれの国の文化や習慣などに触れ合う機会を創出する	大会は開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、交歓会は中止した。	—

### 方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

#### 施策11 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます

##### (1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進	スポーツツーリズム振興(地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・海外向けプロモーションについて、オンラインを活用したプロモーションを実施(欧米豪向けオンライン・プロモーション、中国向けオンラインセミナー・商談会) ・スノーベースタウン事業の実証実験のため、定山溪をベースとした道内スキー場へのモニターツアーを実施 ・中島体育センターに設置した街RUN中島公園を軸にイベントを実施し交流人口を拡大したほか、中島公園内にランニング用の距離表示版を設置することで、利用者のモチベーションの向上に寄与した。	○
海外代表合宿の誘致	国際競技大会や事前合宿等の誘致(地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・アジア圏における大規模国際競技大会等の開催が見込まれず、海外代表選手団の合宿等の実績は無し	▲

##### (2) 市民スポーツ大会の開催支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
市民スポーツ大会の開催支援	市民スポーツ大会の開催支援(スポーツ事業助成事業)	各種スポーツ大会への助成	2022:大会参加者数 ・札幌市民体育大会:15,476人 ・札幌マラソン:8,178人 ・北海道マラソン:18,290人 ・札幌国際スキーマラソン:709人 ・北海道を歩こう:452人	◎

## 施策12 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

### (1) 札幌の魅力をいかした観光資源の活性化検討

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	・大倉山ジャンプ競技場及びミュージアムを活用したオリパラ招致の機運醸成を図ること等を目的に2019年度に開設した北海道オール・オリンピック活動拠点「オリパラ・サロン」を運営。 オリンピックミュージアム年間来館者数：89,320人 ・市内の小中学校等85校にオリパラ教育を行った。	○
札幌ドームの活用促進の検討	札幌ドーム活用促進事業	札幌ドームが持つ多目的市民利用施設としての能力、可能性を最大限発揮させるため、機能拡充を推進しドームの活用促進を図る	2022年度に概ね計画通りに実施出来たが、海外情勢等によりアルミトラスの納品及びトラス格納庫の建設が2023年度に繰越となった。	○
スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出	スノーリゾート推進事業 都心における冬のアクティビティ創出事業 スポーツツーリズム振興(地域スポーツコミッション事業)	都市型スノーリゾートシティとしてのブランド化を目指した計画を策定するとともに、市内スキー場、宿泊施設等の民間事業者による共同事業を支援 札幌市北3条広場にスケートリンクを設置するとともに、ホワイトイルミネーションの活用等により夜観光の魅力も高めることで、札幌ならではの新たな体験型コンテンツを創出 札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	「スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略」を策定 4,362名(滑走者数) ※参考:入場者数34,149名 北3条広場に「日本の祭り」をイメージしたリンクを設置の他、各種集客イベントを実施。(集客イベント:オリンピックの指導による子ども向け体験教室、太鼓奏者・篠笛奏者によるスペシャルライブなど) ・「Sapporo Snow Park」(旧ナイトクロカンinホワイトイルミネーション)を実施 ・東京2020大会マラソンレガシーを継承した事業「街RUN中島公園」を軸にイベントを実施し交流人口を拡大したほか、中島公園内にランニング用の距離表示版を設置することで、利用者のモチベーションの向上に寄与した。	◎

### (2) プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチームの連携 ホームタウンパートナー協定に基づく、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ)と連携してスポーツを通じたまちづくりを推進 デンソーエアリービーズ(V1女子)及びサフィールウエ北海道(V2男子)を保有するミリススポーツとのホームタウンパートナー協定に基づき、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成を図る	年間実施数 10事業(区民応援デー、キッズデー、他部局連携(教育、消防)、共通カレンダー作成、合同動画制作、シティドレッシング、豊平公園駅パネル掲示、雪かき汗かきチャレンジ、FISジャンプワールドカップコラボ、コンサドーレ開幕戦盛り上げ) 2事業(シティPRとしてアリーナにスマイルロゴの掲出)	○

### (3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究【再掲】	ウインタースポーツ・オフシーズン練習施設整備費補助金【再掲】	市民が一年を通じてウインタースポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	補助件数1件(累計4件)	○

## 目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

## 方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

施策13 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

## (1) ラグビーワールドカップ2019TMの開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
ラグビーワールドカップ2019TMの開催	ラグビーワールドカップ2019開催事業	ラグビーワールドカップ2019を開催することにより、トップレベルのスポーツに触れる機会を提供するとともに、国内外ヘンティブプロモートを実施。	・ラグビーワールドカップ2019大会を開催した(事業終了)	◎

## (2) 東京2020オリンピック・サッカー競技の開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
東京2020オリンピック・サッカー競技の開催	東京2020大会における首都圏での札幌魅力発信事業	東京2020に合わせ、国内外を問わず首都圏を訪れる多くの観光客に対して、北海道・札幌への来客につなげることを目的に情報発信	・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中における首都圏を訪れる大会関係者への札幌の情報発信(事業終了)	○

## (3) 国際スポーツ会議の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
国際スポーツ会議の誘致に向けた取組 ※国際スポーツイベントも実績に含める	都心部クロスカントリースキー大会実証実験事業	札幌ならではの冬のにぎわいを新たに創出するため、都心部においてクロスカントリースキー競技の国際大会開催を目指し実証実験を行う	・真駒内屋外競技会場周辺で国内大会(ジュニア・パラ)を開催したが、国際大会の開催にはいたっていない	◎
	国際スポーツ大会等誘致促進事業	冬季オリパラ招致に向け、ウィンタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・車いすカーリングエキシビジョンマッチ ・バルクールプレミアカップ ・NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 ・2023FISパラ・ノルディックスキーアジアカップ札幌大会	

## (4) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進 【再掲】	スポーツツーリズム振興【再掲】 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウィンタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・「Sapporo Snow Park」(旧ナイトクロカンinホワイトイルミネーション)を実施 ・東京2020大会マラソンレガシーを継承した事業「街RUN中島公園」を軸にイベントを実施し交流人口を拡大したほか、中島公園内にランニング用の距離表示版を設置することで、利用者のモチベーションの向上に寄与した。	◎
海外代表合宿の誘致 【再掲】	国際競技大会や事前合宿等の誘致【再掲】 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・アジア圏における大規模国際競技大会等の開催が見込まれず、海外代表選手団の合宿等の実績は無し	▲

## 方針7 世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展

## 施策14 オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

## (1) 市民の招致機運の醸成に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うとともに、機運醸成の取組や招致活動を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IOC及び市民との対話内容を踏まえながら、令和3年度に公表した大会概要(案)の更新版を策定・公表</li> <li>・IOCへの提出物(将来開催地質問状の回答や保証書)案の作成</li> <li>・市民対話事業(オリパラ出前講座及び若者ワークショップ)機運醸成事業(イベントブース出展等)の実施</li> <li>・コロナ対策を講じたオリパラ教育の継続実施(ミュージアム訪問:61校)</li> <li>・北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会において、「開催意義」について取りまとめ広く発信、招致スローガン「世界が驚く、冬にしよう。」を策定</li> <li>・「招致応援プログラム」として、競技団体等の関係団体の協力を得て、広報PRツールを活用し、関係者が一体となり全国に機運醸成の取組を展開</li> <li>・東京2020大会に関連する受託取崩事件や受注調整(談合)疑惑による大会に対する市民等の不安や不信感の高まりを受け、令和4年12月より積極的な機運醸成活動を一時休止し、2030大会の競技運営体制の見直しやガバナンス体制の検討を開始</li> </ul>	—
	冬季オリンピック・パラリンピック基金造成事業	冬季オリパラ招致に向け、一時的に集中する施設整備等の財政負担を平準化するため、複数年に渡り資金を積み立て。	・2020年度から内閣府より「冬季オリンピック・パラリンピック招致による札幌創生推進プロジェクト」として企業版ふるさと納税の活用が認定された	
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動を通じた道内連携の促進	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うため、会場や周辺自治体との連携を図る。	・関係自治体とともにIOCとの対話に参加し、施設整備や大会運営のあり方等について協議した	○
1972年札幌オリンピック50周年記念事業の実施検討	1972年札幌オリンピック50周年記念事業	2021年度に記念事業を実施し、2030年冬季オリパラ招致の機運醸成を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周年記念事業実行委員会に負担金を支出し、実行委員会と連携して周年事業を実施した(事業終了)。</li> <li>・オリンピックミュージアムの年間来館者数(2021年):約61千人</li> </ul>	○

## (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
オリンピック・パラリンピックを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する	全小中学校の88%にあたる259校において、副教材や実践事例集を活用した学習、オリンピックの講演、オリンピックミュージアムでの活動等のオリンピック・パラリンピック教育を実施した。	○
札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業【再掲】	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	・札幌オリンピックミュージアムを活用し、市内の小中学校等85校にオリパラ教育を行った。	○
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ【再掲】	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業【再掲】	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	・大倉山ジャンプ競技場及びミュージアムを活用したオリパラ招致の機運醸成を図ること等を目的に2019年度に開設した北海道オール・オリンピックズ活動拠点「オリパラ・サロン」を運営。 オリンピックミュージアム年間来館者数：89,320人 ・市内の小中学校等85校にオリパラ教育を行った。	○

## 施策15 札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

## (1) スポーツを核としたまちづくりの研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツと集客交流の拠点づくりの検討	札幌ドーム周辺活用推進事業	高次機能交流拠点である札幌ドーム周辺地域について、将来的なあり方に関する具体的な検討等の推進	・基本計画策定業務を実施	▲
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討【再掲】	スポーツ施設再整備事業【再掲】	更新時期を迎えたスポーツ施設の再配置・再整備等の具体的な検討	・2022年度の基本計画策定に向けて作業を進めていたが、追加検討が必要になったため、当該年度中の策定には至らなかった。 ・温水プールの民間活力活用に向けた調査結果をもとに本市所管のプールや民間プールを含めた効率的・効果的な施設のあり方について検討を行った。	▲

## (2) 冬季版ハイパフォーマンスセンター（HPC）の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
冬季版ハイパフォーマンスセンター（HPC）の誘致に向けた取組	冬季版ハイパフォーマンススポーツセンター誘致事業	冬季オリパラ招致を目指す都市として、ウインタースポーツの振興や競技力の向上に向けて、総合型ハイパフォーマンススポーツセンターを誘致	・札幌市重点要望において、総合型HPC誘致を要望 ・道内におけるスポーツ医科学サポート体制のあり方について検討する検討会を開催	▲

## (3) 地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2022年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘【再掲】	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成【再掲】（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技5種目及び夏季競技3種目において育成事業を実施。ナショナルチームに9人の育成選手が選出された。また、体力測定会等を行い、優れた素質を有する子どもたちの中から、15人の子どもたちを発掘プロジェクト生として選考した。	◎
アスリートの活用【再掲】	運動部活動アスリート派遣事業【再掲】（アスリート活用事業） オリンピックズキャラバン事業【再掲】（アスリート活用事業）	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進。 地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	24運動部活動に派遣 派遣回数延べ290回 11イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ1,103人。	◎
さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進（各種大会参加経費への補助など）	大会出場支援人数 計297人（うち、国際大会への支援14人）	—
スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討【再掲】	スポーツ支援企業マッチング事業【再掲】	事業化に向けた検討中	・2022年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	▲